

高温に注意！高温に対応した管理を徹底しましょう！



1 飽水管理を継続してください

- 登熟初中期はデンプン蓄積が盛んな時期のため、可能な限り飽水管理を継続し、田面を乾かすことがないように管理してください。
- 極端な高温やフェーンが予想される場合は、可能な限り速やかに湛水して稲への水分ストレスを軽減しましょう。ただし、根腐れ防止のため湛水は一時的なものとしてください。
- 完全落水はできる限り遅くし、出穂後25日以降をめやすとしてください。

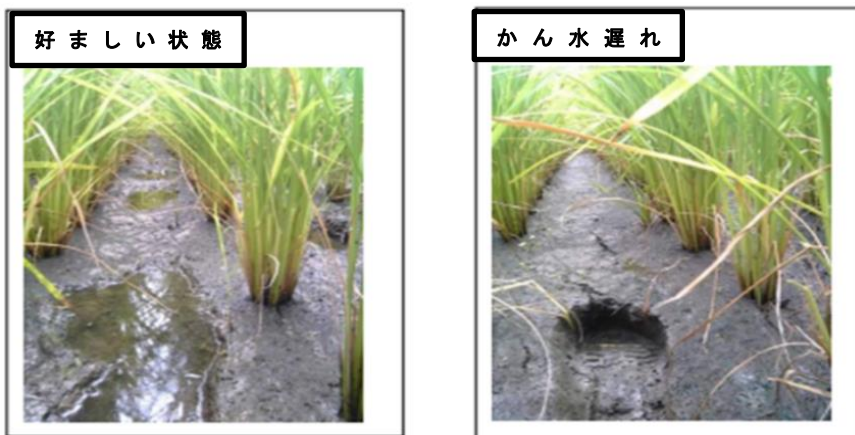
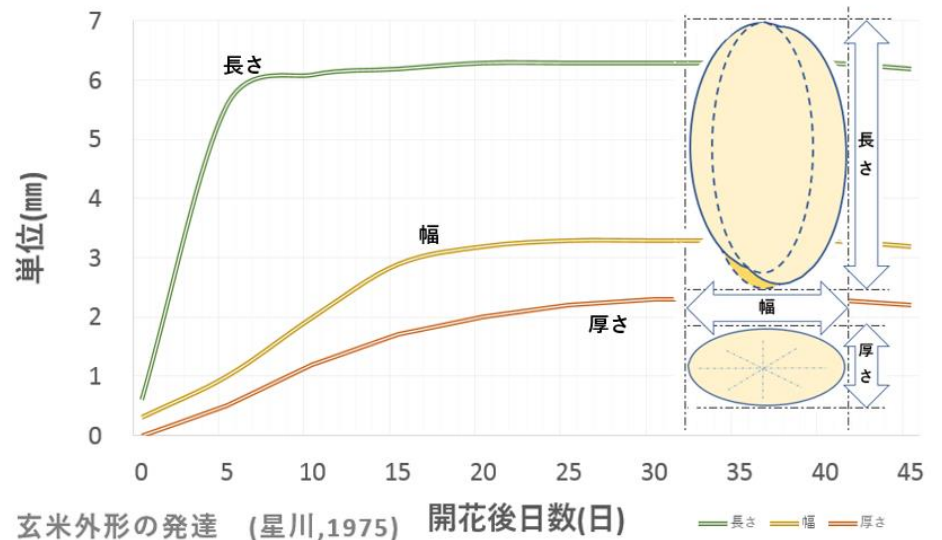


図 飽水管理の状態（足跡に水が残る程度）



玄米外形の発達 (星川,1975) 開花後日数(日) 長さ 幅 厚さ

2 ほ場ごとの収穫適期を確認してください

(1) 出穂期と収穫適期のめやす

- 中生以降は平年並み、早生で出穂が平年並み～1日程度早まっています。刈り遅れによりこれまでの管理努力が無駄にならないよう、ほ場ごとの出穂期を勘案したうえで収穫計画を立てましょう。
- 特に大規模生産者は、収穫の中心が収穫適期となるよう、無理のない計画としてください。

表 出穂期と収穫適期のめやす（8月15日現在）

	品種名	出穂期	出穂後の積算温度	収穫適期のめやす
早生	新潟次郎（飼料用）	7月18日頃	1,000℃～	8月23日頃～※4
	五百万石	7月23日頃	975℃	8月27日頃※3
	つきあかり	7月24日頃	1,100～ 1,200℃	9月2日～ 9月7日頃※
	わたぼうし	7月22日頃	975℃	8月26日頃3※
	こしいぶき	7月29日頃	975℃	9月3日頃※
中生	こがねもち	7月30日頃	1,000℃	9月5日頃※
	コシヒカリ	8月3日頃	1,000℃	9月10日頃※
		8月5日頃		9月12日頃※
		8月8日頃（中山間地）		9月20日頃※2
8月13日頃（山間地）	9月26日頃※2			
晩生	にじのきらめき	8月5～8日頃	1,100～ 1,200℃	9月16日～ 9月25日頃
		新之助	8月8日頃	1,050℃
	みずほの輝き	8月11日頃	1,050℃	9月22日頃※

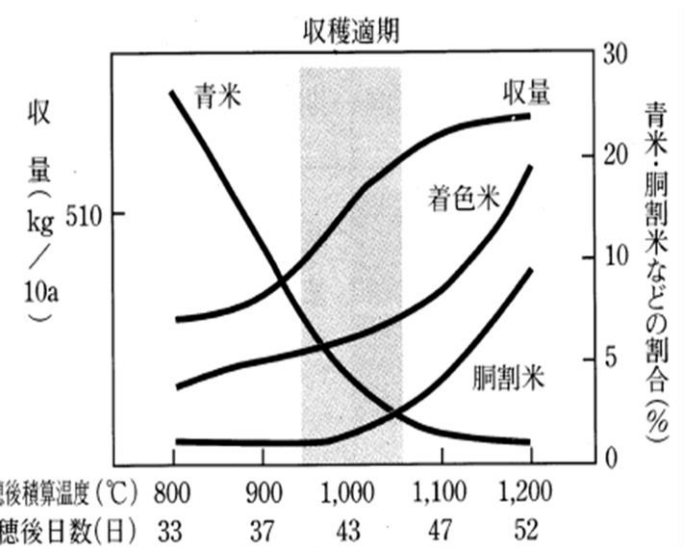


図 出穂後積算温度と玄米品質 ※積算温度は8月15日以降は平均値を使用。今後の天候で適期が前後する場合があります。

※2 中山間地、山間地は関山のアメダスデータを、その他の平坦地は高田のアメダスデータを使用しました。

※3 早生品種は高温条件での登熟となる可能性が高いことから、胴割粒や基部未熟粒の発生軽減のため、出穂後の積算温度を通常より50℃早めましょう。（飼料用の新潟次郎は除く）

※4 飼料用米（新潟次郎）は、登熟と立毛乾燥を期待し、記載積算温度以上を確保してください。

高温に注意！高温に対応した管理を徹底しましょう！



1 飽水管理を継続してください

- 登熟初中期はデンプン蓄積が盛んな時期のため、可能な限り飽水管理を継続し、田面を乾かすことがないよう管理してください。
- 極端な高温やフェーンが予想される場合は、可能な限り速やかに湛水して稲への水分ストレスを軽減しましょう。ただし、根腐れ防止のため湛水は一時的なものとしてください。
- 完全落水はできる限り遅くし、出穂後25日以降をめやすとしてください。

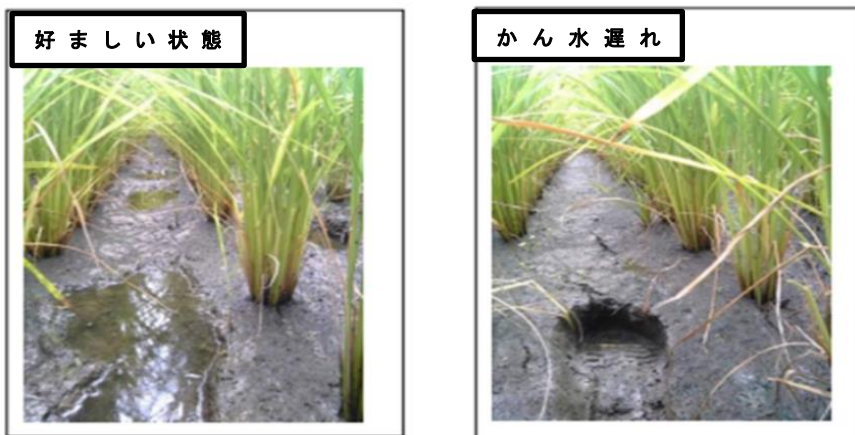
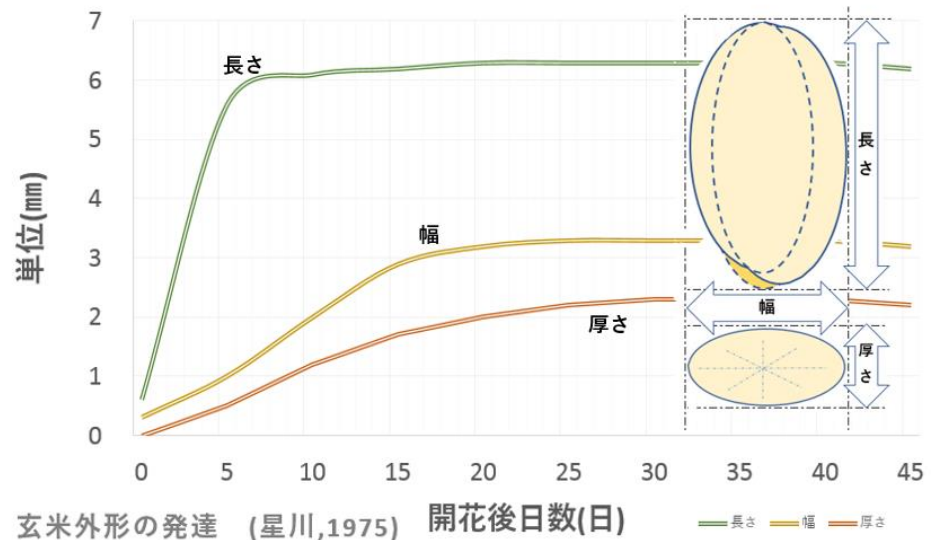


図 飽水管理の状態（足跡に水が残る程度）



玄米外形の発達 (星川,1975) 開花後日数(日) 長さ 幅 厚さ

2 ほ場ごとの収穫適期を確認してください

(1) 出穂期と収穫適期のめやす

- 中生以降は平年並み、早生で出穂が平年並み～1日程度早まっています。刈り遅れによりこれまでの管理努力が無駄にならないよう、ほ場ごとの出穂期を勘案したうえで収穫計画を立てましょう。
- 特に大規模生産者は、収穫の中心が収穫適期となるよう、無理のない計画としてください。

表 出穂期と収穫適期のめやす（8月15日現在）

	品種名	出穂期	出穂後の積算温度	収穫適期のめやす
早生	新潟次郎（飼料用）	7月18日頃	1,000℃～	8月23日頃～※4
	五百万石	7月23日頃	975℃	8月27日頃※3
	つきあかり	7月24日頃	1,100～ 1,200℃	9月2日～ 9月7日頃※
	わたぼうし	7月22日頃	975℃	8月26日頃3※
	こしいぶき	7月29日頃	975℃	9月3日頃※
中生	こがねもち	7月30日頃	1,000℃	9月5日頃※
	コシヒカリ	8月3日頃	1,000℃	9月10日頃※
		8月5日頃		9月12日頃※
		8月8日頃（中山間地） 8月13日頃（山間地）		9月20日頃※2 9月26日頃※2
にじのきらめき	8月5～8日頃	1,100～ 1,200℃	9月16日～ 9月25日頃	
晩生	新之助	8月8日頃	1,050℃	9月18日頃※
	みずほの輝き	8月11日頃	1,050℃	9月22日頃※

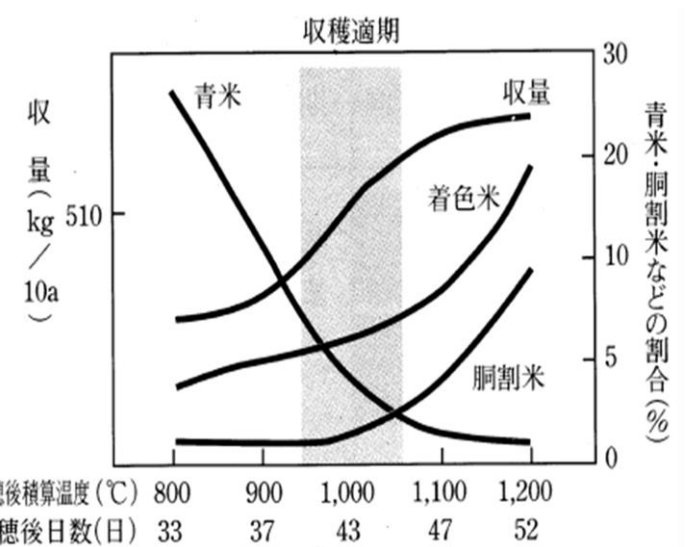


図 出穂後積算温度と玄米品質 ※積算温度は8月15日以降は平均値を使用。今後の天候で適期が前後する場合があります。

※2 中山間地、山間地は関山のアメダスデータを、その他の平坦地は高田のアメダスデータを使用しました。

※3 早生品種は高温条件での登熟となる可能性が高いことから、胴割粒や基部未熟粒の発生軽減のため、出穂後の積算温度を通常より50℃早めましょう。（飼料用の新潟次郎は除く）

※4 飼料用米（新潟次郎）は、登熟と立毛乾燥を期待し、記載積算温度以上を確保してください。

高温に注意！高温に対応した管理を徹底しましょう！



1 飽水管理を継続してください

- 登熟初中期はデンプン蓄積が盛んな時期のため、可能な限り飽水管理を継続し、田面を乾かすことがないよう管理してください。
- 極端な高温やフェーンが予想される場合は、可能な限り速やかに湛水して稲への水分ストレスを軽減しましょう。ただし、根腐れ防止のため湛水は一時的なものとしてください。
- 完全落水はできる限り遅くし、出穂後25日以降をめやすとしてください。

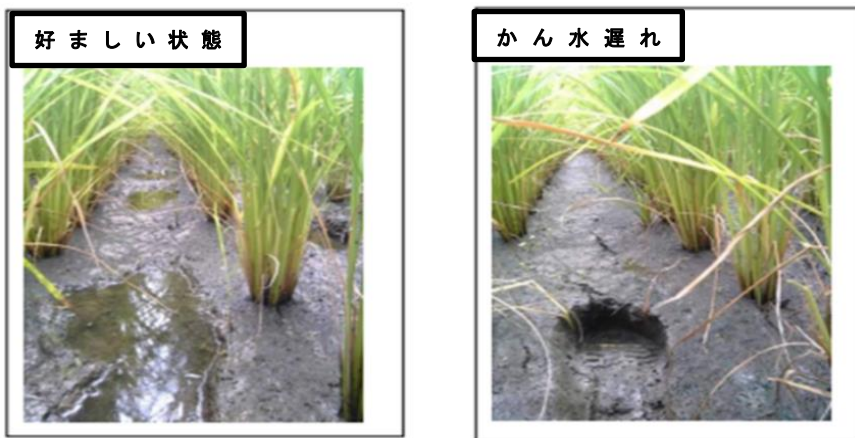
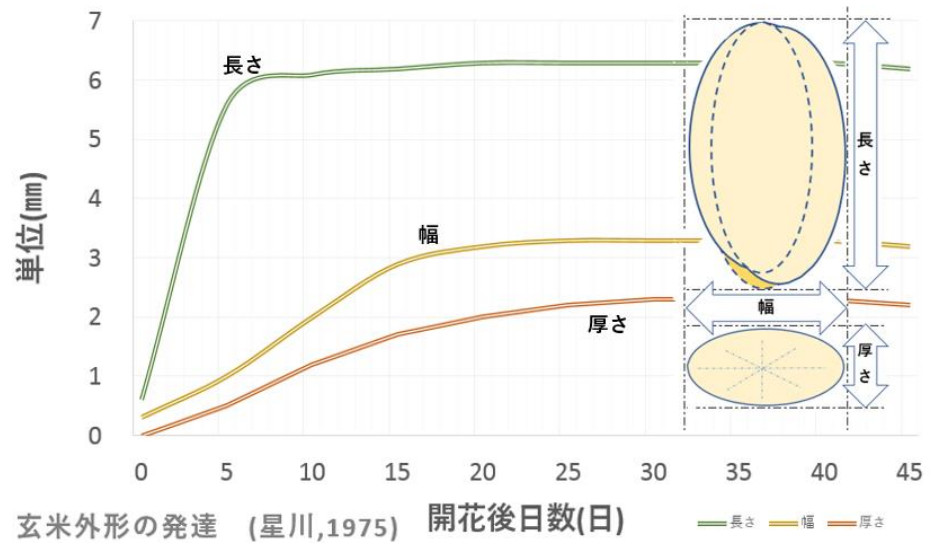


図 飽水管理の状態（足跡に水が残る程度）



玄米外形の発達 (星川,1975) 開花後日数(日) 長さ 幅 厚さ

2 ほ場ごとの収穫適期を確認してください

(1) 出穂期と収穫適期のめやす

- 高温の影響で、早生で出穂が平年より1日程度早まっています。刈り遅れによりこれまでの管理努力が無駄にならないよう、ほ場ごとの出穂期を勘案したうえで収穫計画を立てましょう。
- 特に大規模生産者は、収穫の中心が収穫適期となるよう、無理のない計画としてください。

表 出穂期と収穫適期のめやす（8月15日現在）（山間地）

	品種名	出穂期	出穂後の積算温度	収穫適期のめやす
早生	つきあかり	7月26日～8月2日頃 8月5日～10日頃(高原)	1,100～ 1,200℃	9月8日～9月23日頃※2 9月21日～10月4日頃※2
	あきたこまち	8月1日～8日頃(高原)	975℃	9月10日～9月19日頃※2
	わたぼうし	7月26日頃	975℃	9月3日頃※2
	こしいぶき	7月30日頃	975℃	9月8日頃※2
中生	こがねもち	8月2～3日頃	1,000℃	9月12日～14日頃※
	コシヒカリ	8月5日頃 8月8日頃(関山) 8月13日頃(高原)	1,000℃	9月16日頃※ 9月20日頃※ 9月27日頃※

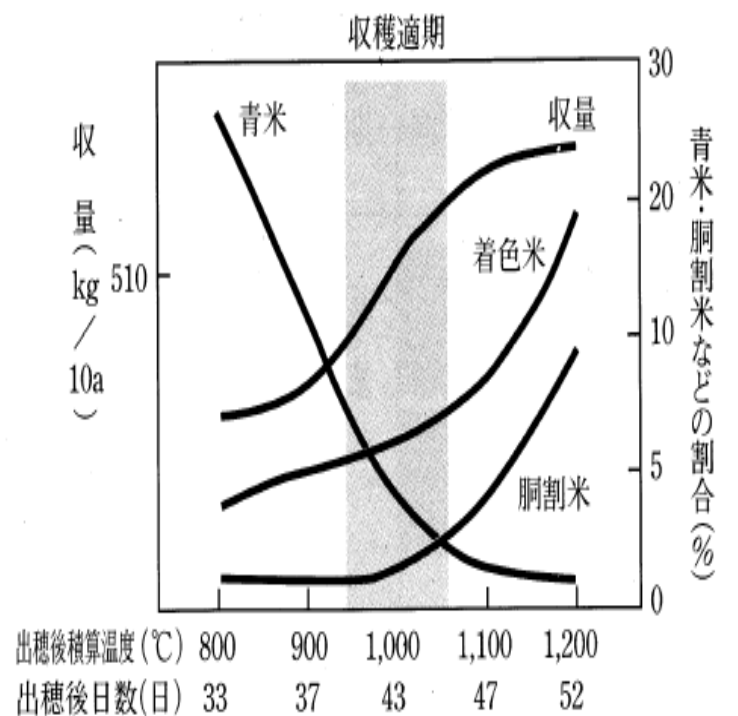


図 出穂後積算温度と玄米品質

※1 積算温度は、関山のアメダスデータを使用、8月15日以降は平年平均値を使用。今後の天候で適期が前後する場合がある。
 ※2 早生品種は高温条件での登熟となる可能性が高いことから、胴割粒や基部未熟粒の発生軽減のため、出穂後の積算温度を通常より50℃早めましょう。

(2) ほ場ごとの収穫適期判断

○積算温度は一つのめやすとして活用し、実際の収穫適期は下図を参考にほ場ごとに判断してください。

○ほ場ごとの収穫適期は、穂全体の85~90%が黄化し、穂の基部に緑色の籾が一部残っている頃になります。

○茎葉の色だけで収穫適期は判断できませんので、必ず籾の黄化率を確認した上で、ほ場ごとに収穫適期を判断してください。

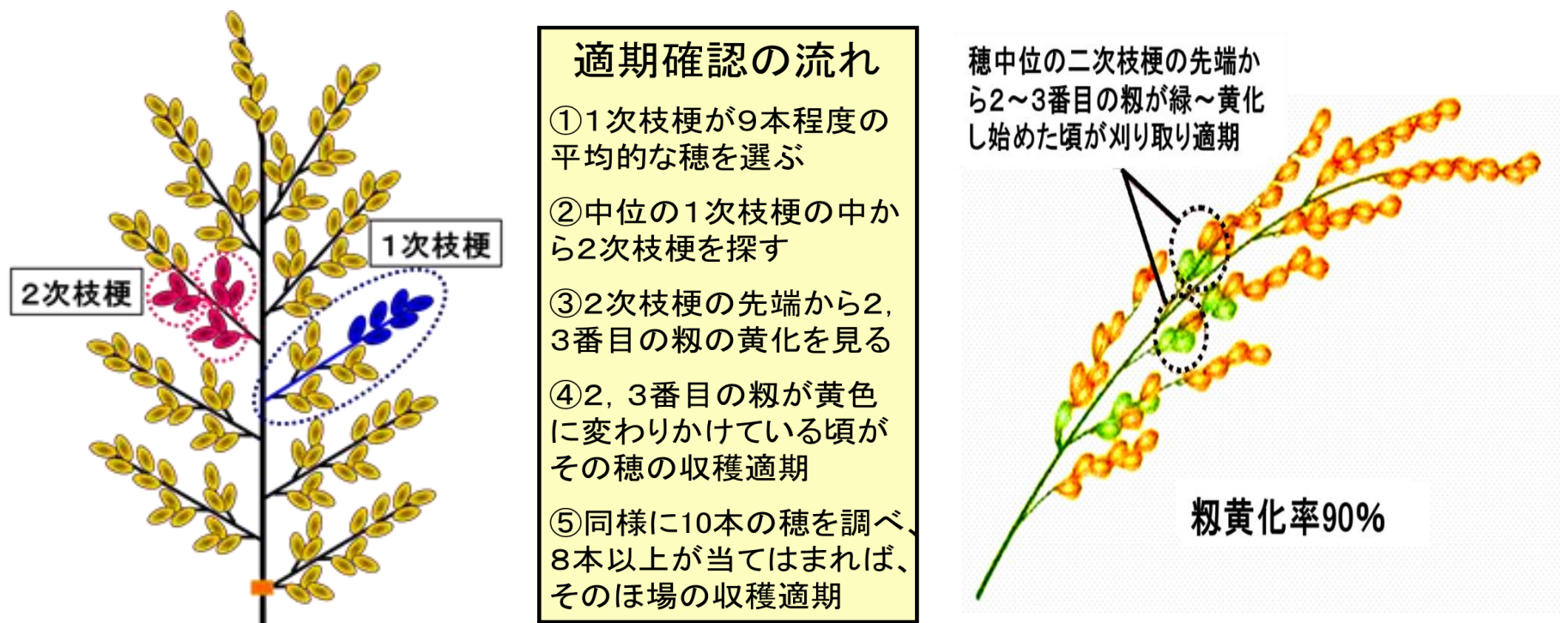


図 収穫適期の籾と収穫判断の方法

3 収穫後の圃場管理

○秋すき込みの実施・・・土づくりの基本、籾殻や稲わらをすき込みましょう。

○土壌診断に基づく土作り資材の積極的な施用・・・気象変動に対応できる土づくりと根域の確保
(ケイ酸の補給が「土づくり」の第一歩、ケイ酸・リン酸資材の投入と、秋すき込みで不足分を補給する。)

令和6年度 安全・安心「えちご上越米」栽培履歴の提出について

・第2回目提出日 **8月20日**まででした、未提出の方は早急に支店の方へ提出をお願いします。

※栽培履歴の提出が必要な方は、**JAに米を出荷する方**及び飯米のみ作付の方でも、**カントリーエレベータ等のJA施設を利用される方**が対象です。提出が無いと施設利用が出来なくなります。必ず提出して下さい。



LINE 営農情報LINE公式アカウント 友だち募集中!



@618zoxpw

営農部では、タイムリーな営農情報を発信する公式LINEアカウントを開設しました。

準備が整い次第、営農生産活動に役立つ情報をお届けしていきますので、生産者の皆さま登録をお待ちしています。

◎ 友だち登録は、QRコードを読み取るか、ID検索からお願いします。■お問い合わせ先 農業対策課 (TEL: 025-527-2050)

※ コンバイン事故の発生防止

走行中の転落や横転、整備中の事故、手こぎ時に巻き込まれ事故の発生が多いので注意!

※ 農作業時の熱中症予防

時間を決めて水分を取るなど、こまめな水分補給を行いましょう!

